「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０１７年12月　第117号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集長／藤本　愉

研究の成果を発表

学問への探求深まる
国文学会卒業論文発表会
目標確かめる機会に

国文学会卒業論文発表会が12月13日、ホテルスエヒロにて行われた。

発表会は、国文学会の活動の一つとして行われており、学生が主体となって準備を進め、日頃の研究成果を発表する貴重な場となっている。国文学会会長安田義明先生の開会の辞から始まり、各ゼミより代表7名が持ち時間10分の間で熱く発表した。限られた時間での発表ではあったが、配布された各研究のレジュメは聴衆がわかりやすいように内容がまとめられ、時間をかけて研究の構想を練り上げてきた学生たちのたゆまぬ努力を垣間見ることができた。

当日は国文学科の学生、各ゼミの教員の他に、本校の文芸創作の指導をなさっている升井純子先生にも参加して頂き、学会の活動としてより一層の深まりを感じた。また、普段は自分たちの専門以外の話を聴く機会があまりなかったので、他分野の発表を受けて、より学問への関心を高めることができた。学生においては、発表を通して受けた刺激や感じたこと、参考になったことなどを自分たちの研究に活かしつつ、改めて進むべき目標を確かめるいい機会となった。

その後の懇談会では、運ばれてきたホテルの料理に舌鼓を打ちながら、学年やゼミの枠組みを越えての交流が図られた。終始和やかな雰囲気の中、ようやく緊張から解かれた発表者の笑みもこぼれ、国文学会としての繋がりをより強いものにすることができた。

私はここから新たに気を引き締めて、日夜研究に励んでいきたいと思った。（国文学科2年／石岡佑也）

個々に合わせた援助必要
6週間の介護実習を終えて

私たち専攻科福祉専攻の学生は、10月から老人保健施設及び特別養護老人ホームで6週間の介護実習を行わせていただきました。

これまでに学校の講義で介護技術を学んではきましたが、いざ実際の現場でその学びが適切に発揮出来たかと聞かれれば、自信を持って「はい」とは言えません。知識として頭に入っていても、それをすぐに引き出すことが出来ずに焦ってしまうこともありました。また、授業での演習では、身体が自由に動く自分たちが利用者モデルとなって行っていたため、利用者役も無意識のうちに体を動かしたり、力を入れてしまうため、一見円滑な介助が出来たように感じましたが、実際に介助をするのは、身体動かすことが難しい利用者さんであり、その利用者さんを支えるのは思うよりも難しいことでした。

しかしながら、実習先の職員さん方からの指導や助言を受け、実習を重ねていくことで、利用者さんにあった援助の方法を知っていくことが出来ました。相手の身体の状況や心の状態を理解し、信頼関係を築くことが、実際の介護現場では大切なことだと感じました。

実際の施設で、実際の利用者さんを相手にすることで、介護の本来の難しさや、在り方を学ぶことが出来ました。また、今回学んだことは、介護の現場以外でも十分に活かすことの出来るものだと思います。介護実習での経験を通して、どのような場でも相手を理解し、寄り添うことが大切だと感じました。（専攻科福祉専攻／上杉日菜恵）

新たな発見や気づき
総合教養学科研究発表会
計16本の発表成功

12月16日、本学４０２教室において「総合教養学科研究発表会」を開催しました。今年は昨年より各ゼミからの研究発表が3本増え、計16本となりました。

私は昨年に引き続き実行委員を務めさせていただきましたが、今年の実行副委員長という役職は頭で考えていたものより責任が重く、大変だと感じました。準備段階での各委員の意思疎通に努力したり、学生への連絡の徹底に気を遣ったりするなどして、発表会当日を迎えました。このような状況でしたから、不安を抱えながらの発表会がほぼ予定通りに終わったことは成功したといえるのではないかと思います。

特に当日を迎えるまで発表本数が増えたことで、予定時間を大幅に過ぎてしまうのではないかと考えていましたが、各発表者が時間を守ってくれたことにより、予定時間内に終えることができたことは実行委員会としてとても嬉しく思いました。

また、皆さんの研究発表の質は高く、おそらく当日参加した1・2年の学生は発表を聞いて新たな発見や気づきがあり、今後の研究活動に役に立つ、本当に収穫の多い機会になったのではないかと考えています。

最後に、研究発表大会の成功に向け協力してくれた皆さんに対し、実行委員会として感謝したいと思います。

もう一つ、個人的な話となりますが、今回研究発表会実行副委員長として研究発表会の成功に向け、最後まで実行委員の皆さんと発表会の準備・運営に携われたことは本当に私にとって貴重な経験となりました。ありがとうございました。（総合教養学科研究発表会実行副委員長・総合教養学科2年／大道佑香）

地域住民と和やかに交流
舛井ゼミが江部乙駅で「駅カフェ」

12月10日、江部乙駅に駅カフェが開催されました。私たち舛井ゼミでは、はらぺこあおむしの読み聞かせ、漫才、それから江部乙を舞台とした劇「江部乙今昔物語」を行いました。学生たちは演技や劇の制作などについては全くの素人でしたが、約100名ほどの来客があり、コミカルな演技を楽しんでもらえたのではないかと思います。また、本学の学生も地域の皆様との交流を楽しみました。

今回演じた「江部乙今昔物語」は、現代の女性が昭和40年代の江部乙にタイムスリップし、戸惑いながらも活気のあった江部乙に馴染んでいき、りんご農家へ嫁いで幸せな家族を築いていく物語です。この脚本は江部乙の皆様にご協力を頂き、学生たちが昔の江部乙の様子をヒアリングし作成したものです。そこでは、映画館のこと、昔の遊びのこと、それから女性たちが行商をしてリンゴを売って歩いたことなど話してくださった当時の生活の様子をベースにしています。また、良かった話だけではなく、大量のリンゴの木が病気にかかり基幹産業が危機に陥ったことなどの話もあり、そうした話も劇中に盛り込みました。

地域の皆様からは、他のイベントでも上演してほしいなど有り難い声を頂いた一方で、もう少し江部乙の歴史を勉強した方がよいというコメントも頂きました。私どもといたしましても、これで終わりだとは思っておりません。多くの人にヒアリングを継続することで江部乙の歴史、風俗、産業等について、この劇を通じて後に伝えられればと思っております。

今後も応援よろしくお願い申し上げます。（総合教養学科准教授／舛井雄一）

楽しい発表会を終えて
手作りの寸劇を披露

10月26日、本学体育館で楽しい発表会を行いました。この発表会は、例年日本の昔話をテーマにして、地域の子どもたち、各保育所・幼稚園の先生方、保護者の皆さんにオペレッタ、遊び歌、パネルシアターなどを見てもらう、大切な行事となっています。

今年の発表会は絵本「泣いた赤鬼」をテーマとし、先生方と私たち学生とが一丸となって舞台のセットをつくり、脚本も学生手作りのもので、りっぱなものができました。私自身も発表会で青鬼くんという役を演じました。

私はこの発表会を通して多くのこと学びました。この学びを得ることができたことは、大きな成長へとつながり、保育士として働くことへ向けての大切な経験になりました。（幼児・児童教育学科幼児保育コース2年／飛田祐一朗）

苦手分野の克服に向け勉強
公務員試験対策講座

11月30日に公務員試験対策講座が行われました。私は今年の北海道教員採用試験を受けた際の課題として数学の勉強が必要だということを感じたため、今回の講座を受けることに決めました。

この講座では、来年の1月から3回に分けて公務員試験に出題される教養試験の数的推理、判断推理などを勉強します。

1回目の講座では公務員の種類、試験の傾向や対策について講師の先生からの説明を聞きました。国家公務員と地方公務員の仕事の違いなど今までよく分からなかった「公務員」という仕事について詳しく理解することができました。

この講座で試験に出題される苦手な分野の勉強をして、これからの自分の進路に向けて頑張りたいと思います。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／三井芳紘）

就職に向けての疑問や不安解消
就職ガイダンス

12月7日に行われた就職ガイダンスでは、就職希望の1年生のみならず編入する2年生も参加した。

今回は滝川市役所の吉住さんを招き、地方自治体の仕事について話をしてもらった。仕事の内容や公務員になるにあたって準備しておくことなどをスライドにまとめて分かりやすく説明してくれた。話の中では、公務員だけではなく民間企業を受ける時にも必要になる能力なども聞く事ができたため、これから就活を始める人たちにとっても良い時間になったのではないかと思う。

参加した1・2年生は積極的に質問しており、それぞれの疑問や不安を解消していた。

公務員を志望する人は、公務員講座があるのでそこでも力をつけていけるように努力を続けて欲しい。また、公務員を考えていない人も情報収集を早くから行って欲しいと思う。（キャリアサポーター・国文学科2年／佐藤沙耶）

パネル展示「竹取物語絵巻」

「今はむかし…」ではじまる、かぐや姫が竹のなかから生まれ、月へと昇天していくロマンティックな筋書きを持つ「竹取物語」の本文と、場面場面を色彩豊かに描いた絵とをあわせて巻物にしたのが、この「竹取物語絵巻」です。この絵巻は現在20点ほど確認されていていますが、特に國學院大學蔵のものは色彩豊かなものと評価されています。

記

▽展示期間／平成30年4月末まで
▽展示場所／上巻は正面玄関、中巻・下巻は学生食堂
▽観覧／自由

サークル紹介

イラスト研究サークル
制作依頼も承ります

イラスト研究サークルは毎週水・木曜日に活動しています。イラスト・漫画等の作成を主としており、サークル員は学科・学年・性別問わず和気あいあいと参加しています。

創立2年目の今年は前期と後期にそれぞれテーマを設定し、2ヶ月に1枚イラストの提出をノルマとしています。今年度のテーマは前期「妖と神」、後期「現代人の生活」です。またこのノルマ以外にも夏季長期休暇・冬季長期休暇には個別のノルマを設定。夏季は「擬人化」、冬季は「性癖暴露大会」となります。これらのイラスト・漫画は本に纏め、年に一度参加する東京のイベントにて発行予定です。昨年に引き続き、3月に東京ビッグサイトで行われる「HARU COMIC CITY23」に参加する予定で進めています。今年度のありす祭ではラミネートカードとポストカードのみの販売でしたが、来年度には今回発行予定の本も同時販売します。

当サークルでは外部からのイラストやロゴなどの作成も有償で承っています。今年度のありす祭のポスターやCATYのTシャツロゴ、現在は文芸部から挿絵の作成依頼も遂行中です。依頼や質問事項などがありましたらサークル員にご相談ください。

☆入試情報☆

○特別指定校制学校推薦 第Ⅲ期
○指定校制学校推薦 第Ⅱ期
○自己推薦 第Ⅲ期
○社会人・帰国子女特別入試 第Ⅱ期

○出願期間／H30.1.9(火)～1.30(火)必着
○選 考 日／H30.2.3(土)
○合格発表／H30.2.10(土)

詳細・お問合せ、資料請求は入学係まで
(TEL0125-23-4111)

FM-CATY
正月放送　感謝の１２時間大放送
放送日　平成30年1月4日(木)
時　間　10:00～22:00
チャンネル　FM G' Sky 77.9 MHz
主なコーナー　・ラジオドラマ　・みんなの方言
・みんなが知りたい歴史のあれこれ
・スナックアケミ
・CATY大反省会
FM-CATYは本学が提供している番組で、企画・構成・放送、すべて学生たちが行っています。
mail:caty@fmgsky.com